

令和3年度仁淀川地域アクションプランの
追加、削除、拡充等（予定項目）

仁 淀 川 地 域 本 部

令和3年2月9日（火）

令和3年度地域アクションプランの追加、削除等（予定項目）

地域アクションプランへの支援の方向性

(1) 新規事業の掘り起こしと担い手の育成

- ①発掘支援型アドバイザーにより、地域アクションプランへの位置付けを目指す取り組みを掘り起こし（R2～新規）
- ②地域が主体となって実施するビジネス研修への支援により、産業振興の取り組みを牽引する担い手を育成

(2) 地域への経済波及効果の大きい案件の課題解決に向けた支援の強化

- ①課題一貫支援型アドバイザーにより、地域への経済波及効果が大きい案件に対し、全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を一貫して支援（R2～新規）
- ②課題解決型アドバイザーにより、個別課題の解決を支援

地域アクションプラン数 R2年度 217件 → R3年度 223件（+6）

	R2年度	R3年度				A P 数
	A P 数	増減			A P 数	
		追加	削除	統合・分割		
安芸	31			▲ 1	▲ 1	30
物部川	25	1			1	26
高知市	24		▲ 1		▲ 1	23
嶺北	25					25
仁淀川	33	1			1	34
高幡	37	4			4	41
幡多	42	2			2	44
合計	217	8	▲ 1	▲ 1	6	223

○地域産業クラスタープロジェクト R2年度 18件 → R3年度 19件（+1）

仁淀川地域アクションプラン項目（第4期計画（R2年度））と第4期

No.	現在（令和2年度）	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村
		10	11	10	9	8	10
1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進		●	●	●	●	●
2	漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興			●	●	●	●
3	日高村まるごとブランド化						●
4	いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト		●				
5	本川手箱きじの販路拡大		●				
6	越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進					●	
7	仁淀川流域における林業・木材産業の振興	●	●	●	●	●	●
8	仁淀川流域における地域性の高い特産林産物の生産拡大	●	●	●	●	●	●
9	佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト				●		
10	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化	●					
11	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化	●					
12	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承	●	●	●			●
13	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化	●					
14	いの町中心市街地の活性化		●				
15	地域産品を活用した冷菓等の製造販売		●				
16	仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化			●			
17	仁淀川町における糀フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト			●			
18	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進			●			
19	さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進				●		
20	道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト				●		
21	「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化						●
22	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進	●	●	●	●	●	●
23	土佐市における体験型観光と食観光の推進	●					
24	観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化	●					
25	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化	●					
26	いの町の地域資源を生かした体験型観光等の推進		●				
27	いの町本川地区での山岳観光の推進		●				
28	仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実			●			
29	佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進				●		
30	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進					●	
31	越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化					●	
32	日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進						●
33	「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化						●

計画Ver. 2 (R3年度) の対比表)

【仁淀川地域】

	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	No.	改定案(令和3年度)
	11	11	10	9	8	10		
		●	●	●	●	●	1	仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進
			●	●	●	●	2	漢方薬の原料となる薬用作物の作付け拡大と生産性の向上による仁淀川流域産地の振興
						●	3	日高村まるごとブランド化
		●					4	いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト
		●					5	本川手箱きじの販路拡大
					●		6	越知町を中心とした食用山椒の生産体制の確立と販売促進
	●	●	●	●	●	●	7	仁淀川流域における林業・木材産業の振興
	●	●	●	●	●	●	8	仁淀川流域における地域性の高い特産林産物の生産拡大
				●			9	佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト
	●						10	宇佐の一本釣りうるめいわしのブランド化
	●						11	宇佐のアサリ資源を活用した地域の活性化
追加	●						12	土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興
	●	●	●			●	13	「土佐和紙」の販売促進と保存・継承
	●						14	「ドラゴン広場」を核にした高岡商店街の活性化
		●					15	いの町中心市街地の活性化
		●					16	地域産品を活用した冷菓等の製造販売
			●				17	仁淀川町で製造するクラフトビールの展開による交流人口の拡大と地域の活性化
			●				18	仁淀川町における粥フードプランを核としたカット野菜事業クラスタープロジェクト
			●				19	仁淀川町における茶を中心とした農産物の6次産業化推進
				●			20	さかわの地乳(ぢちち)を活用した売れる商品づくりと地産外商の推進
				●			21	道の駅を拠点とした「ごちそう佐川」プロジェクト
						●	22	「村の駅ひだか」での農産物等の販売による地域商業の振興と地域の活性化
	●	●	●	●	●	●	23	「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進
	●						24	土佐市における体験型観光と食観光の推進
	●						25	観光交流施設「南風」を核とした新居地区の活性化
	●						26	酔鯨酒造株式会社新工場を核とした体験型観光等の推進による地域活性化
		●					27	いの町の地域資源を生かした体験型観光等の推進
		●					28	いの町本川地区での山岳観光の推進
			●				29	仁淀川町での観光情報の発信強化と受入体制の充実
				●			30	佐川町での歴史と文教を生かしたまちづくりによる観光の推進
拡充					●		31	越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進
					●		32	越知町における体験型観光の拠点となるキャンプ場を核とした交流人口の拡大と地域の活性化
						●	33	日高村の地域資源を生かした体験型観光等の推進
						●	34	「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化

仁淀川地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興 (土佐市) 【実施主体】(株)土佐マリンベース、和光商事(株)	(株)土佐マリンベースが養殖魚(ブリ、マダイ、カンパチ)の産地加工体制を構築するとともに、常に変化する食品の流通形態に合わせた商品開発や地元食材の活用による商品の高付加価値化、販売チャネルの整備等に取り組むことで、養殖漁業の振興、地元雇用の創出及び地元産品の利用拡大につなげる。

■削除 なし

■その他(拡充)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No. 30 越知町の総合的な観光振興と地場産品の販売促進(越知町) 【実施主体】越知町観光協会、おち駅物販経営協議会、越知町、JA高知県(仁淀川地区)など	【拡充】越知町内の個人や団体が地域の素材等を活かした特産品開発にチャレンジするための、新たな施設(調理場)整備に向けた取り組みを加え、アクションプランを拡充する。

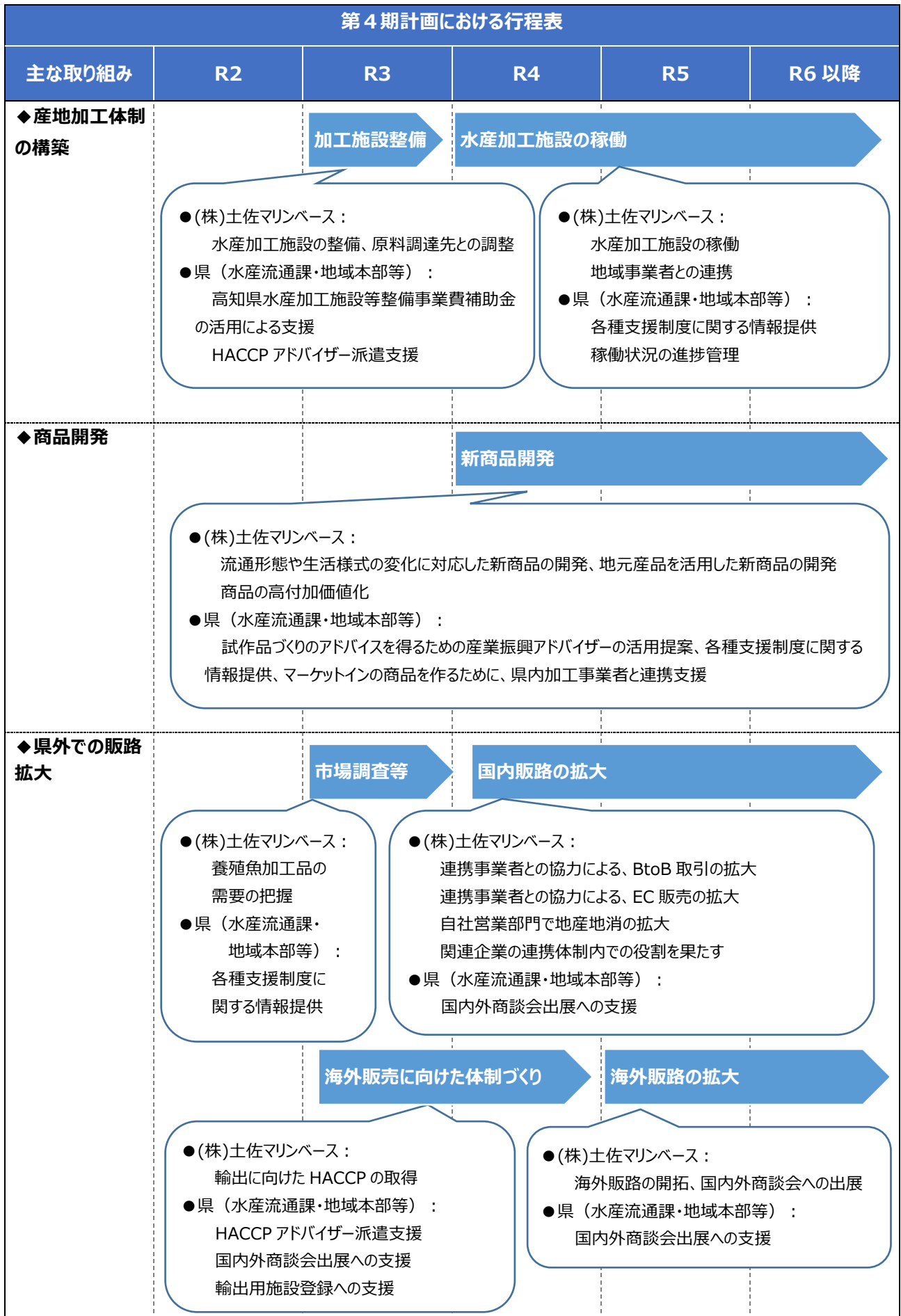
追加項目（案）

追加

仁淀川地域アクションプラン		分野	水産業
AP名 (実施地域)	No.12 土佐市における養殖魚加工体制の構築による加工品の販売拡大と地域の振興 (土佐市)		
実施主体	◎(株)土佐マリンベース、和光商事(株)		
APへの位置づけ	R3.4月（予定）		
事業概要	(株)土佐マリンベースが養殖魚（ブリ、マダイ、カンパチ）の産地加工体制を構築するとともに、常に変化する食品の流通形態に合わせた商品開発や地元食材の活用による商品の高付加価値化、販売チャネルの整備等に取り組むことで、養殖漁業の振興、地元雇用の創出及び地元産品の利用拡大につなげる。		

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	-	-		3億7,100万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆産地加工体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工施設整備に関する和光商事(株)と県との協議 (H31.2月～) 加工施設用地の視察 (R元.10月) 和光商事(株)、県、土佐市が参加 (株)土佐マリンベース設立 (R2.3月) 高知県水産加工施設等整備事業費補助金の活用による支援を検討 (R2.9月) 高知県水産加工施設等整備事業費補助金申請・交付決定 (R3.3月) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 加工施設用地の取得、事業計画の策定 (R2.11月) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> スケジュールに沿った加工施設の整備 完成後の加工施設の円滑な運営



修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.30 越知町の総合的な観光振興と地場製品の販売促進 (越知町)
実施主体	◎越知町観光協会、◎おち駅物販経営協議会、◎越知町、JA 高知県(仁淀川地区) など
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	情報発信機能と物販機能を持った「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な観光資源を組み合わせた体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した新商品開発に取り組み、交流人口の拡大と販売促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績					目標
	H30	R2	R3	R4	R5	R5	
(1) おち駅での販売額	1.0 億円					1.1 億円	
(2) 横倉山自然の森博物館入館者数	6,507 人					9,700 人	
(3) カヌー・ラフティング利用者数	1,694 人					2,400 人	

これまでの主な動き

〈これまでの取り組みの内容〉

◆観光物産館おち駅の利用者拡大

- ・観光物産館おち駅の整備（H22.3月）
→H21 産振補助金の活用(事業費 7,301 万 3 千円)
- ・販売促進にかかる備品等の整備
→H22 産振補助金の活用(事業費 875 万 8 千円)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、新商品開発や店づくり、情報発信等のスキルアップを実施(H22:4 回、H23:5 回×2、H25:4 回、H26:2 回、H27:5 回)

◆横倉山のさらなる魅力向上

- ・横倉山魅力資源活用計画の策定（H28.3月）
→H27 産振補助金(ステップアップ事業)の活用（事業費 54 万 7 千円）
- ・横倉山ガイドメニューづくり（H27～29）
- ・産業振興アドバイザーを導入して、横倉山ガイド基本コース台本を作成（H28:5 回）し、継続して他コースも台本を作成（R 元）
- ・横倉山ガイドモニターツアーの実施（H30.4 月）
- ・横倉山トレッキングツアーの開始（H30.4 月）
- ・産業振興アドバイザーを導入して、ツアーの情報発信強化に向けた写真撮影等の技術を習得（R 元:1 回）

◆カヌー、ラフティングの利用者拡大

- ・観光拠点等整備事業費補助金などを活用して、カヌー及びラフティングの備品を整備（H22、H24、H30、R 元）
- ・ガイドの養成・確保（H22～）
- ・産業振興アドバイザーを導入して、ガイド養成を実施（H23:5 回）
- ・カヌー及びラフティング事業を開始（H23.7 月）
- ・産業振興アドバイザーを導入して、E ボートを活用した体験観光メニューを検討（H28:1 回）

〈主な成果〉

- ◆おち駅の来客数
H22 : 82,974 人 → H30 : 88,337 人
- ◆横倉山トレッキングツアー開始 H30 : 94 人

〈課題〉

- ・おち駅の来客数増加に向けた、店舗スタッフの確保や情報発信の強化
- ・横倉山トレッキングツアーの一層の周知、充実
- ・カヌー及びラフティング利用者増加に対応するためのガイドの確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光物産館おち駅の利用者拡大	利用者のニーズに応じた店づくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おち駅物販経営協議会： 商品の安定確保・充実、町内施設との連携 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	効果的な情報発信による新規利用者の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おち駅物販経営協議会： 情報発信手段の検討・実践 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆横倉山のさらなる魅力向上	横倉山自然の森博物館の活用				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町： SNS等を活用した情報発信、他機関との連携 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	横倉山トレッキングツアーの充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町観光協会、越知町： 横倉山トレッキングツアーのガイド勉強会の実施、テーマを設けたツアーの実施、PRによる知名度の向上 ●県（地域本部等）： 勉強会の実施協力、産業振興アドバイザーなど各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆カヌー、ラフティングの利用者拡大	県内外へのPR				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町、(株)スノーピーク： 各メディア等を活用した情報発信、企業研修等の活用促進による平日の稼働率向上 ●県（地域本部等）： 県関係メディアを活用した情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	ガイドの育成・確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町、(株)スノーピーク： ガイド確保に向けた情報発信、観光関係者合同のガイド勉強会の実施 ●県（地域本部等）： 情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
<p>【用語】 SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebookなどがある。</p>					

AP名 (実施地域)	No.31 越知町の総合的な観光振興と地場製品の販売促進 (越知町)
実施主体	◎越知町観光協会、◎おち駅物販経営協議会、◎越知町、JA 高知県(仁淀川地区) など
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	情報発信機能と物販機能を持った「越知町観光物産館おち駅」を拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。また、地域の様々な観光資源を組み合わせた体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した新商品開発に取り組み、交流人口の拡大と販売促進を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) おち駅での販売額	1.0億円 (H30)	1.17億円		1.1億円
(2) 横倉山自然の森博物館 入館者数	6,507人 (H30)	8,564人		9,700人
(3) カヌー・ラフティング利用者 数	1,694人 (H30)	1,915人		2,400人

これまでの主な動き

〈これまでの取り組みの内容〉

◆観光物産館おち駅の利用者拡大

- ・観光物産館おち駅の整備 (H22.3月)
→H21 産振補助金の活用(事業費 7,301万3千円)
- ・販売促進にかかる備品等の整備
→H22 産振補助金の活用(事業費 875万8千円)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、新商品開発や店づくり、情報発信等のスキルアップを実施(H22:4回、H23:5回×2、H25:4回、H26:2回、H27:5回、R2:3回)

◆横倉山のさらなる魅力向上

- ・横倉山魅力資源活用計画の策定 (H28.3月)
→H27 産振補助金(ステップアップ事業)の活用 (事業費 54万7千円)
- ・横倉山ガイドメニューづくり (H27~29)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、横倉山ガイド基本コース台本を作成 (H28:5回) し、継続して他コースも台本を作成 (R元)
- ・横倉山ガイドモニターツアーの実施 (H30.4月)
- ・横倉山トレッキングツアーの開始 (H30.4月)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、ツアーの情報発信強化に向けた写真撮影等の技術を習得 (R元:1回)

◆カヌー、ラフティングの利用者拡大

- ・観光拠点等整備事業費補助金などを活用して、カヌー及びラフティングの備品を整備 (H22、H24、H30、R元)
- ・ガイドの養成・確保 (H22~)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、ガイド養成を実施 (H23:5回)
- ・カヌー及びラフティング事業を開始 (H23.7月)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、Eポートを活用した体験観光メニューを検討 (H28:1回)

〈主な成果〉

- ◆おち駅の来客数
H22 : 82,974人 → R元 : 86,550人
- ◆横倉山トレッキングツアー参加者数
H30 : 94人 → R元 : 73人

〈課題〉

- ・おち駅の来客数増加に向けた、店舗スタッフの確保や情報発信の強化
- ・横倉山トレッキングツアーの一層の周知、充実
- ・カヌー及びラフティング利用者増加に対応するためのガイドの確保
- ・地場産品等を活用した新商品開発に取り組みのための、新たな調理場の整備

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光物産館おち駅の利用者拡大	利用者のニーズに応じた店づくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おち駅物販経営協議会： 商品の安定確保・充実、町内施設との連携 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	効果的な情報発信による新規利用者の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●おち駅物販経営協議会： 情報発信手段の検討・実践 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
◆横倉山のさらなる魅力向上	新たな調理場の検討及び整備		新商品開発及び販売		
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町： 関係機関との調整及び整備 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●町内個人・事業者、おち駅物販経営協議会： 新商品の開発、おち駅等での販売 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 		
	横倉山自然の森博物館の活用				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町： SNS等を活用した情報発信、他機関との連携 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆カヌー、ラフティングの利用者拡大	横倉山トレッキングツアーの充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町観光協会、越知町： 横倉山トレッキングツアーのガイド勉強会の実施、テーマを設けたツアーの実施、PRによる知名度の向上 ●県（地域本部等）： 勉強会の実施協力、産業振興アドバイザーなど各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
	県内外へのPR				
	<ul style="list-style-type: none"> ●越知町、(株)スノーピーク： 各メディア等を活用した情報発信、企業研修等の活用促進による平日の稼働率向上 ●県（地域本部等）： 県関係メディアを活用した情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 				
ガイドの育成・確保					
<ul style="list-style-type: none"> ●越知町、(株)スノーピーク： ガイド確保に向けた情報発信、観光関係者合同のガイド勉強会の実施 ●県（地域本部等）： 情報発信、各種支援制度に関する情報提供、関係機関への橋渡し 					
<p>【用語】 SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン

分野	農業
----	----

AP 名 (実施地域)	No. 1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進 (いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)
実施主体	◎JA 高知県（仁淀川地区）、◎(農)霧山茶業組合、◎(農)池川茶業組合
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	良質茶の主産地である仁淀川流域で、生産者の高齢化や担い手不足が進む中でも茶産地を維持できる仕組みの構築を図る。また、省力的な栽培管理と効率的な生産体制の整備を検討し、新たな茶商品の開発・販売を通じた仕上げ茶の販売量増加により、茶生産農家の所得の向上を図る。

指標	出発点	実績					目標
	H30	R2	R3	R4	R5	R5	
仕上茶販売量	28.4 t					30.0 t	

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 茶樹の台切り等、茶園の若返りに向けた事業を実施（H24～R元:事業実施者 21名(延べ)、3.5ha） 新害虫（チャトゲコナジラミ）の発生調査を行い、適期防除の体系を確立（H24～27） 作業の省力化に向けた、自走式茶園管理機の摘採実証ほの設置及び管理機現地実証の実施（H27～） <p>◆販売力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐茶まつりや試飲販売等のイベントに出店（H23～） 県内外量販店での販売促進や土佐茶カフェとの連携による消費拡大PRを実施（H23～） 産業振興アドバイザーを導入して、販売強化に向けた研修会を実施（H28～29:7回） 販路開拓や販売拡大に向けて、JGAP 認証取得への勉強会の実施（R元:6回） JA 高知県佐川支所が新たな茶製造ラインを整備（R元.5月） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 自走式茶園管理機の導入 R元：1台（仁淀川地域初） 仕上茶の販売額及び荒茶生産に占める小売の割合 H19：38,796千円、6.6% → H30：85,179千円、16.3% 勉強会の実施を通じて、(農)霧山茶業組合のJGAP 認証取得申請に向けた取り組みが進んだ（R元） JA 高知県佐川支所の茶製造ラインによる新商品の開発 R元：新商品数3（釜炒り茶、烏龍茶、紅茶） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 優良茶園の維持 自走式茶園管理機の導入拡大による省力化の推進 煎茶、ほうじ茶及び発酵茶等の商品開発 仕上げ茶販売量の増加と販売先の開拓 仁淀川流域茶の知名度向上と消費拡大

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降	
◆生産体制の強化	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">茶生産における省力化技術の導入と産地の強化</div>					
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（仁淀川地区）、(農)霧山茶業組合、(農)池川茶業組合： 自走式茶園管理機の導入拡大、茶園の若返り（茶樹の台切り等）による収量の増加、優良茶園の耕作放棄対策に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議の実施 ●県（農業改良普及所等）： 効率的な自走式茶園管理機導入技術の確立、台切り・改植の推進、茶園のマップ化に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議推進 					
◆販売力の向上	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">新商品の開発と新たな販売ルートの開拓</div>					
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（仁淀川地区）、(農)霧山茶業組合、(農)池川茶業組合： 消費者のニーズを踏まえた新商品の開発、産地からの継続的な情報発信、販促活動の活性化、輸出への取り組み拡大 ●県（農業改良普及所等）： 釜炒り茶・烏龍茶・紅茶の各製茶ライン用マニュアル作成、茶業試験場と連携した新商品開発、地域の茶を用いた食育への取り組み強化、茶生産者への GAP 情報の周知、輸出意向の確認と取り組み内容の支援 					
	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">茶生産法人の JGAP 認証の取得</div>	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">JGAP 認証の維持</div>				
<ul style="list-style-type: none"> ●(農)霧山茶業組合： JGAP 認証取得に向けた申請、審査への対応 ●県（農業改良普及所等）： JGAP 認証取得に向けた支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●(農)霧山茶業組合： JGAP 認証の継続審査への準備・対応 ●県（農業改良普及所等）： JGAP 認証取得後のフォローアップ 				
<p>【用語】 ・台切り：老齢化等により低下した樹の生育の回復や若返りために、地上 10cm 程度まで茶樹を切り下げること。</p> <p>・GAP：「Good Agricultural Practice」の略。農産物の生産において、農産物の食品安全性や品質確保、環境負荷低減、労働安全の確保等を目的に、農業生産工程を点検し、記録し、見直し改善していく管理手法。</p> <p>・JGAP：農業者が適正に GAP を実践していることを第三者機関が審査し、一定期間認証する GAP 認証制度の一つ。欧州に倣い、国内で平成 17 年度に策定された。</p>						

修正後

仁淀川地域アクションプラン

分野

農業

AP名 (実施地域)	No.1 仁淀川流域茶の生産体制の強化と販売促進 (いの町、仁淀川町、佐川町、越知町、日高村)
実施主体	◎ J A 高知県 (仁淀川地区)、◎ (農)霧山茶業組合、◎ (農)池川茶業組合
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	良質茶の主産地である仁淀川流域で、生産者の高齢化や担い手不足が進む中でも茶産地を維持できる仕組みの構築を図る。また、省力的な栽培管理と効率的な生産体制の整備を検討し、新たな茶商品の開発・販売を通じた仕上げ茶の販売量増加により、茶生産農家の所得の向上を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
仕上茶販売量	28.4 t (H30)	33.4t		30.0 t

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆生産体制の強化

- ・茶樹の台切り等、茶園の若返りに向けた事業を実施 (H24~R元:事業実施者 21名(延べ)、3.5ha)
- ・台切りの実証ほの設置 (R元~:2カ所)
- ・新害虫(チャトゲコナジラミ)の発生調査を行い、適期防除の体系を確立 (H24~27)
- ・作業の省力化に向けた、自走式茶園管理機の摘採実証ほの設置及び管理機現地実証の実施 (H27~)
- ・自走式茶園管理機の実演会開催 (R2)

◆販売力の向上

- ・土佐茶まつりや試飲販売等のイベントに出店 (H23~)
- ・県内外量販店での販売促進や土佐茶カフェとの連携による消費拡大PRを実施 (H23~)
- ・産業振興アドバイザーを導入して、販売強化に向けた研修会を実施 (H28~29:7回)
- ・販路開拓や販売拡大に向けて、JGAP認証取得への勉強会の実施 (R元:6回)
- ・JA高知県佐川支所が新たな茶製造ラインを整備 (R元.5月)

<主な成果>

- ◆自走式茶園管理機の導入
R元:1台(仁淀川地域初)
- ◆仕上茶の販売額及び荒茶生産に占める小売の割合
H19:38,796千円、6.6%
→ H30:85,179千円、16.3%
R元:70,330千円、22.6%
- ◆勉強会の実施を通じて、(農)霧山茶業組合のJGAP認証取得申請に向けた取り組みを進めていた(R元)が取引先との契約が切れ、JGAP取得は中止となった。
- ◆JA高知県佐川支所の茶製造ラインによる新商品の開発
R元:新商品数3(釜炒り茶、ウーロン茶、紅茶)

<課題>

- ・優良茶園の維持
- ・自走式茶園管理機の導入拡大による省力化の推進
- ・煎茶、ほうじ茶及び発酵茶等の商品開発
- ・仕上げ茶販売量の増加と販売先の開拓
- ・仁淀川流域茶の知名度向上と消費拡大

第 4 期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産体制の強化	茶生産における省力化技術の導入と産地の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（仁淀川地区）、(農)霧山茶業組合、(農)池川茶業組合： <ul style="list-style-type: none"> 自走式茶園管理機の導入拡大、茶園の若返り（茶樹の台切り等）による収量の増加、優良茶園の耕作放棄対策に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議の実施 ●県（農業改良普及所等）： <ul style="list-style-type: none"> 効率的な自走式茶園管理機導入技術の確立、台切り・改植の推進、茶園のマップ化に向けた状況把握と情報共有、地域での茶園管理の協議推進 				
◆販売力の向上	新商品の開発と新たな販売ルートの開拓				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県（仁淀川地区）、(農)霧山茶業組合、(農)池川茶業組合： <ul style="list-style-type: none"> 消費者のニーズを踏まえた新商品の開発、産地からの継続的な情報発信、販促活動の活性化、輸出への取り組み拡大 ●県（農業改良普及所等）： <ul style="list-style-type: none"> 釜炒り茶・ウーロン茶・紅茶の各製茶ライン用マニュアル作成、茶業試験場と連携した新商品開発、地域の茶を用いた食育への取り組み強化、茶生産者への GAP 情報の周知、輸出意向の確認と取り組み内容の支援 				
	茶生産法人の JGAP 認証の啓発				
<ul style="list-style-type: none"> ●県（農業改良普及所等）： <ul style="list-style-type: none"> JGAP 認証取得に向けた啓発 					
<p>【用語】 ・台切り：老齢化等により低下した樹の生育の回復や若返りために、地上 10cm 程度まで茶樹を切り下げること。</p> <p>・GAP：「Good Agricultural Practice」の略。農産物の生産において、農産物の食品安全性や品質確保、環境負荷低減、労働安全の確保等を目的に、農業生産工程を点検し、記録し、見直し改善していく管理手法。</p> <p>・JGAP：農業者が適正に GAP を実践していることを第三者機関が審査し、一定期間認証する GAP 認証制度の一つ。欧州に倣い、国内で平成 17 年度に策定された。</p>					

修正項目 (案)

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	農業
AP名 (実施地域)	No. 4 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト (いの町)		
実施主体	◎いの町、JA 高知県 (仁淀川地区)、いの町商工会 等		
APへの位置づけ	R2.4月		
事業概要	いの町での生姜生産を核として、生姜の集出荷場整備を契機に生姜生産農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。		

指標	出発点	実績				目標
	H30	R2	R3	R4	R5	R5
生姜出荷量	650t					700t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産・販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> JA 高知県伊野支所生姜集出荷場の整備 (H28) → 産地パワーアップ事業活用(事業費：4億2,000万円) 栽培管理技術等の向上に向け、栽培研修会累計17回、出荷場・生産者GAP点検累計19回実施(H29～) 新規就農者等の確保育成 → 就農相談会参加累計4回、技術勉強会受講累計17回(H29～) 出前授業 (H28:2校、H29:2校、H30:2校、R元:4校、延べ355人参加) <p>◆生姜加工品の開発・販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 生姜加工品開発 (H28～) 芽生姜の甘酢漬け等試作 (H30～) 地域産業クラスター形成支援専門アドバイザー導入、県外有名老舗料亭関係者が来高し、甘酢漬け等試食、料亭からレシピ提供(R元) (試作22回：甘酢漬け7回、梅酢漬け4回、飴煮5回、干菓子4種6回) 役場職員向け試食会でのアンケート集計、町内居酒屋3店舗で聞き取り(R元) kami祭にて地元事業者が芽生姜の甘酢漬けの試験販売(R元) JA高知県伊野支所まるい生姜部会(以下：JA生姜部会)規格外生姜の無償提供の生姜を活用した料理開発9店舗(R元) 	<p>◆生姜を核としたい町の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内飲食店による「いの生姜焼き街道スタンプラリー」開催(H27～) JA生姜部会による町内イベントでの生姜の量り売り(H29～) 伊野地区生活改善グループによる「kami祭」「いの町で世界のみんなと大おきゃく」での生姜料理ふるまい(H30～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆新規就農者の確保 新規就農者2名、研修生1名(R元) ◆GAP点検の継続実施 ◆生姜加工品開発：2品、試作品4種類(H29～R元) (有名老舗料亭からレシピ提供・試作) ◆いの生姜焼き街道スタンプラリー参加店： (H28:18店舗、H29:19店舗、H30:18店舗、R元:19店舗) ◆いの生姜焼き街道スタンプラリー参加店に生姜スイーツ提供店舗の加入(H29～) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷量アップに向けた病害対策等と担い手の確保 ・加工品の商品化と安定供給 ・生姜のまち「いの」定着に向けたPR強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産・販売体制の強化	生産拡大の取り組み強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県伊野支所、県(中央西農業振興センター) : 難防除病害対策の検討、GAP の定着・改善、新規就農者の栽培技術の向上 ●いの町、JA、県(中央西農業振興センター) : 新規就農者の確保、出前授業の実施 				
◆生姜加工品の開発・販路拡大	小袋包装機の導入				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県伊野支所：出荷体制の整備 ●いの町、県（中央西農業振興センター等）： 機械導入支援、各種支援制度に関する情報提供 				
◆生姜を核としたいの町の振興	新商品の開発及び販路拡大の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●地元事業者： 「芽生姜の甘酢漬け」等の新たな生姜加工品の開発、イベント等での試験販売 ●いの町、県（地域本部、中央西農業振興センター）： 試作品作成に向けた支援 ●JA 高知県伊野支所まるい生姜部会： 「規格外生姜の無償提供」の取り組みによる、町内飲食店舗・イベント等での加工品販売、メニュー展開促進 ●県（地域本部等）： 加工品づくりへのノウハウを得るために産業振興アドバイザー等の活用提案、セミナーの紹介、各種支援制度に関する情報提供 				
◆生姜を核としたいの町の振興	生姜のまち「いの」PR 戦略の継続による生姜関連産業の発展				
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町： 町内イベントで生姜料理ふるまい（伊野地区生活改善グループ）、生姜消費拡大に向けた PR ●JA 高知県伊野支所まるい生姜部会： イベント等での生姜 PR（量り売り販売） ●いの町商業振興会：生姜焼き街道の取り組み継続、磨き上げ ●県（地域本部等）：広報支援等 				

AP 名 (実施地域)	No. 4 いの町生姜生産・販売拡大クラスタープロジェクト (いの町)
実施主体	◎いの町、JA 高知県（仁淀川地区）、いの町商工会 等
AP への 位置づけ	R2.4 月
事業概要	いの町での生姜生産を核として、生姜の集出荷場整備を契機に生姜生産農家、地元加工業者や直販所、道の駅、学校及び商工会等が連携し、生産から販売、人材育成までの好循環を生み出す。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
生姜出荷量	650t (H30)	750t		700t

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞

◆生産・販売体制の強化

- ・JA 高知県伊野支所生姜集出荷場の整備 (H28)
→ 産地パワーアップ事業活用(事業費：4 億 2,000 万円)
- ・栽培管理技術等の向上に向け、栽培研修会累計 17 回
- ・JA 高知県伊野支所生姜集出荷場出入口等の整備(R2)
→高知県集出荷施設等緊急整備事業(事業費:2,825 万円)
- ・出荷場・生産者 GAP 点検累計 23 回実施(H29～)
- ・新規就農者等の確保育成
→ 就農相談会参加累計 4 回、技術勉強会受講累計 19 回 (H29～)
→ 出前授業：(H28: 2 校、H29:2 校、H30:2 校、R 元:4 校、R2:2 校、延べ 437 人)

◆生姜加工品の開発・販路拡大

- ・生姜加工品開発 (H28～)
- ・芽生姜の甘酢漬け等試作 (H30～)
- ・地域産業クラスター形成支援専門アドバイザー導入、県外有名老舗料亭関係者が来高し、甘酢漬け等試食、料亭からレシピ提供(R 元) → (試作 22 回：甘酢漬け 7 回、梅酢漬け 4 回、飴煮 5 回、干菓子 4 種 6 回)
- ・役場職員向け試食会でのアンケート集計、町内居酒屋 3 店舗で聞き取り(R 元)
- ・kami 祭にて地元事業者が芽生姜の甘酢漬けの試験販売 (R 元)
- ・JA 高知県伊野支所まいる生姜部会（以下：JA 生姜部会）規格外生姜の無償提供の生姜を活用したメニュー開発：8 店舗 12 品見込み(R 元～R2)

- ・芽生姜加工品の商品化に向けたパッケージデザイン協議(R2)
- ・地元事業者と共に中央西福祉保健所へ営業許可等相談 (R2)
- ・芽生姜の甘酢漬け 菌検査・栄養成分検査実施 (R2)
- ・芽生姜の梅酢漬け 試作品の試食、モニター調査 (R2)
- ◆生姜を核としたいの町の振興
- ・町内飲食店による「いの生姜焼き街道スタンプラリー」開催 (H27～)
- ・JA 生姜部会による町内イベントでの生姜の量り売り(H29～)
- ・伊野地区生活改善グループによる「kami 祭」「いの町で世界のみんなどおきゃく」での生姜料理ふるまい(H30～)

＜主な成果＞

- ◆新規就農者の確保
新規就農者 3 名(R 元～2) 予定、研修生 3 名(R 元～2)
- ◆GAP 点検により集出荷場の入り口の改善が決定
- ◆生姜加工品開発：17 品見込み(H29～R2)
- ◆いの生姜焼き街道スタンプラリー参加店 (H28:18 店舗、H29:19 店舗、H30:18 店舗、R 元:19 店舗、R2:中止)
- ◆いの生姜焼き街道スタンプラリー参加店に生姜スイーツ提供店舗の加入(H29～)
- ◆芽生姜の甘酢漬け 販売開始 (R3.1 月)

＜課題＞

- ・出荷量アップに向けた病害対策等と担い手の確保
- ・加工品の商品化と安定供給
- ・生姜のまち「いの」定着に向けた PR 強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産・販売体制の強化	生産拡大の取り組み強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県伊野支所、県(中央西農業振興センター) : 難防除病害対策の検討、GAPの定着・改善、新規就農者の栽培技術の向上 ●いの町、JA、県(中央西農業振興センター) : 新規就農者の確保、出前授業の実施 				
◆生姜加工品の開発・販路拡大	小袋包装機等の導入		出荷体制の整備、充実		
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県伊野支所 : 出荷体制の整備 ●いの町、県(中央西農業振興センター等) : 機械導入支援、各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県伊野支所 : 出荷体制の整備 ●いの町、県(中央西農業振興センター等) : 出荷形態の充実 		
◆生姜を核としたいの町の振興	新商品の開発及び販路拡大の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●地元事業者 : 「芽生姜の甘酢漬け」等の新たな生姜加工品の開発、イベント等での試験販売 ●いの町、県(地域本部、中央西農業振興センター) : 試作品作成に向けた支援 ●JA 高知県伊野支所まるい生姜部会 : 「規格外生姜の無償提供」の取り組みによる、町内飲食店舗・イベント等での加工品販売、メニュー展開促進 ●県(地域本部等) : 加工品づくりへのノウハウを得るために産業振興アドバイザー等の活用提案、セミナーの紹介、各種支援制度に関する情報提供 				
◆生姜を核としたいの町の振興	生姜のまち「いの」PR戦略の継続による生姜関連産業の発展				
	<ul style="list-style-type: none"> ●いの町 : 町内イベントで生姜料理ふるまい(伊野地区生活改善グループ)、生姜消費拡大に向けたPR ●JA 高知県伊野支所まるい生姜部会 : イベント等での生姜PR(量り売り販売) ●いの町商業振興会 : 生姜焼き街道の取り組み継続、磨き上げ ●県(地域本部等) : 広報支援等 				

修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	農業
AP名 (実施地域)	No.5 本川手箱きじの販路拡大 (いの町)		
実施主体	◎本川手箱きじ生産企業組合、いの町		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	いの町本川地区の特産品である「本川手箱きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。		

指標	出発点	実績				目標
	H30	R2	R3	R4	R5	R5
きじ販売額	1,419万円					2,951万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆営業力強化による販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページリニューアル、営業ツールの作成、県外への営業活動、金属探知機の導入 →H30産振補助金（ステップアップ）の活用（事業費164万円） ・高知県産品商談会、土佐の宴等県内外の商談会へ参加 ・県内での様々なPRイベントへの出店 ・他社とのコラボ商品の開発により須崎市のふるさと納税で商品の取扱開始 <p>◆安定した生産体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産設備（貯卵庫、脱毛器、液体型急速冷凍機）の整備（H26） ・本川手箱きじ生産企業組合の設立（H26） ・生産、販売、経営状況を検討する定例会の開催 ・経営計画の策定（H29） ・きじ飼育等をミッションとした地域おこし協力隊の募集 <p>◆衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版HACCP第2ステージの認証取得（H29） ・施設整備に向けた関係者協議及び基本設計・実施設計の策定 	<p><主な成果></p> <p>◆他社とのコラボ商品の売上の増加（ふるさと納税）</p> <p>H28：19万円 → H30：61万円</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工処理施設の改修による衛生管理の強化 ・営業人材の確保 ・顧客のニーズに合った新商品の開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆営業力の強化による販路拡大	販路拡大に向けた営業・PR活動の実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：営業人材の確保、各種イベントでのPR、商談会への出展、インターネット・SNSを活用した販売、定例会での情報共有 ●県（地域本部等）：定例会への参画によるアドバイス、産振アドバイザーの活用提案、地産外商公社等への橋渡し、商談会などの情報提供 				
	顧客のニーズに応じた商品の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：既存商品のブラッシュアップ、未活用素材の活用検討、アンケートの実施によるニーズ把握 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案 				
◆安定した生産体制の確保	飼育担当人材の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：飼育担当人材の確保、飼育技術の指導・教育 ●いの町：地域おこし協力隊の募集 ●県（地域本部等）：人材確保センター等への橋渡し、研修等に関する情報提供 				
◆衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修	施設改修				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合： 県版 HACCP 第3ステージの認証取得 ●いの町： 衛生管理の高度化と作業効率化に向けた施設整備 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を継続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.5 本川手箱きじの販路拡大 (いの町)
実施主体	◎本川手箱きじ生産企業組合、いの町
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	いの町本川地区の特産品である「本川手箱きじ」の販路の拡大と顧客ニーズに対応した商品の開発に取り組み、中山間地域の基幹産業として定着させる。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
きじ販売額	1,419 万円 (H30)	1,486 万円		2,951 万円

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆営業力強化による販路拡大

- ・ホームページリニューアル、営業ツールの作成、県外への営業活動、金属探知機の導入
→H30 産振補助金（ステップアップ）の活用
（事業費 164 万円）
- ・高知県産品商談会、土佐の宴等県内外の商談会へ参加
- ・県内での様々な PR イベントへの出店
- ・他社とのコラボ商品の開発により須崎市のふるさと納税で商品の取扱開始
- ・白いきじ誕生等話題性のあるものを利用したプレスリリースを実施（5 本）

◆安定した生産体制の確保

- ・生産設備（貯卵庫、脱毛器、液体型急速冷凍機）の整備（H26）
- ・本川手箱きじ生産企業組合の設立（H26）
- ・生産、販売、経営状況を検討する定例会の開催
- ・経営計画の策定（H29）
- ・きじ飼育等をミッションとした地域おこし協力隊の募集

◆衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修

- ・県版 HACCP 第 3 ステージの認証取得（R2）
- ・施設整備に向けた関係者協議及び基本設計・実施設計の策定

- ・きじ加工処理施設の整備（R2）
→R 元産振補助金の活用
（事業費：11,574 万円）

<主な成果>

◆他社とのコラボ商品の売上の増加（ふるさと納税）

H28：19 万円 → R 元：33 万円

◆一般消費者への販売羽数の増加

H28：475 羽 → R 元：646 羽

<課題>

- ・営業人材の確保
- ・顧客のニーズに合った新商品の開発
- ・食材としてのきじの認知度の向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆営業力の強化による販路拡大	販路拡大に向けた営業・PR活動の実施				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：営業人材の確保、各種イベントでのPR、商談会への出展、インターネット・SNSを活用した販売、定例会での情報共有 ●県（地域本部等）：定例会への参画によるアドバイス、産振アドバイザーの活用提案、地産外商公社等への橋渡し、商談会などの情報提供 				
	顧客のニーズに応じた商品の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：既存商品のブラッシュアップ、未活用素材の活用検討、アンケートの実施によるニーズ把握 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案 				
◆安定した生産体制の確保	飼育担当人材の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合：飼育担当人材の確保、飼育技術の指導・教育 ●いの町：地域おこし協力隊の募集 ●県（地域本部等）：人材確保センター等への橋渡し、研修等に関する情報提供 				
◆衛生管理向上と生産能力拡大に向けた施設改修	施設改修	新施設の稼働			
	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合： 県版 HACCP 第3ステージの認証取得 ●いの町： 衛生管理の高度化と作業効率化に向けた施設整備 	<ul style="list-style-type: none"> ●本川手箱きじ生産企業組合： まじの安定生産・加工処理 ●県（地域本部等）、いの町： 各種支援制度に関する情報提供 			
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサブ」と呼ばれている。製造における重要な工程を継続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を確保しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン

分野

林業

AP 名 (実施地域)	No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト （佐川町）
実施主体	◎佐川町、◎自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体
AP への 位置づけ	H27.4 月
事業概要	自伐型林業を核とした産業クラスターを形成・推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出や人材育成等を通じた地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績				目標
		R2	R3	R4	R5	R2～R5 累計
(1) 林業関連新規 就業者数	17 人 (H28～R 元累計)					20 人
(2) 山林の集約化 面積	300ha (H28～30 累計)					400ha

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆自伐型林業の確立

- ・佐川町自伐型林業推進協議会の設立（H26.3 月）
- ・地域おこし協力隊（自伐型林業）の採用（H26～）
- ・自伐型林業研修の開催（H26～）
- ・森林の所有者と森林資源の情報を管理・共有する仕組みとして「森林 ICT プラットフォーム」を構築（H28.5 月）
- ・山林管理状況アンケートや山林集約化推進員による山林管理の意向調査の実施（H28～）
- ・佐川町と山林所有者との間で森林長期施業管理契約を締結（H28～）

◆低質材の活用促進

- ・佐川町産材の積極的な利活用のための「森林資源フル活用センター（仮称）」の整備事業計画を策定（R 元）

◆さかわ産木材を活用したものづくりの推進

- ・デジタルファブリケーションを活用したものづくりの拠点「さかわ発明ラボ」の開所（H28.4 月）

- ・地域おこし協力隊（ものづくり関連）の採用（H28～）
- ・学校教育・地域等と連携したワークショップ等の開催（H28～）
- ・町内で製作した町産材のおもちゃを赤ちゃんにプレゼントする木育の取り組み「ウッドスタート事業」の開始（H30～）

<主な成果>

- ◆自伐型林業研修参加者数
H28～30：247 名（延人数）
- ◆さかわ発明ラボ施設利用者数
H28～30：946 名（延人数）

<課題>

- ・自伐型林業を担う人材の育成、産業として成立するビジネスモデルの構築と推進のための組織づくり
- ・森林資源フル活用センター（仮称）の整備に向けた協議、運営体制の確立
- ・さかわ発明ラボの運営体制の確立

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆自伐型林業の 確立	林業従事者の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 地域おこし協力隊の採用、自伐型林業研修の実施 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供等 				
	産業として成立するビジネスモデルの構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 林地の集約化の推進、林業者による組織設立の検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供等 				
◆低質材の活用 促進	施設の整備検討及び実施		森林資源フル活用センター（仮称）での 製材・加工・販売		
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 森林資源フル活用センター（仮称）の施設管理、運営主体の検討、施設整備 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用検討、各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 森林資源フル活用センター（仮称）の運営、製材や加工による木工用材の活用推進 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係者への橋渡し 		
◆さかわ産木材 を活用したもの づくりの推進	さかわ発明ラボ運営体制の確立及びものづくりに関する人材育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、さかわ発明ラボ： 運営体制の検討、低質材を活用した木工品の開発・販売、学校教育・地域等と連携したものづくりを通じた人材育成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係事業者への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.9 佐川町における自伐型林業を核とした産業づくりと地域の活性化クラスタープロジェクト (佐川町)
実施主体	◎佐川町、◎自伐型林業やものづくりに取り組む個人・団体
APへの位置づけ	H27.4月
事業概要	自伐型林業を核とした産業クラスターを形成・推進することで、森林環境の保全及び関連事業を含めた雇用の創出や人材育成等を通じた地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R2~R5 累計
(1) 林業関連新規就業者数	17人 (H28~R元累計)	5人		20人
(2) 山林の集約化面積	225ha (H28~30 累計)	266ha		400ha

これまでの主な動き

<これまでの取り組みの内容>

◆自伐型林業の確立

- ・佐川町自伐型林業推進協議会の設立 (H26.3月)
- ・地域おこし協力隊(自伐型林業)の採用 (H26~)
- ・自伐型林業研修の開催 (H26~)
- ・森林の所有者と森林資源の情報を管理・共有する仕組みとして「森林 ICT プラットフォーム」を構築 (H28.5月)
- ・山林管理状況アンケートや山林集約化推進員による山林管理の意向調査の実施 (H28~)
- ・佐川町と山林所有者との間で森林長期施業管理契約を締結 (H28~)

◆低質材の活用促進

- ・佐川町産材の積極的な利活用のための「森林資源フル活用センター(仮称)」の整備事業計画を策定 (R元)

◆さかわ産木材を活用したものづくりの推進

- ・デジタルファブリケーションを活用したものづくりの拠点「さかわ発明ラボ」の開所 (H28.4月)

- ・地域おこし協力隊(ものづくり関連)の採用 (H28~)
- ・学校教育・地域等と連携したワークショップ等の開催 (H28~)
- ・町内で製作した町産材のおもちゃを赤ちゃんにプレゼントする木育の取り組み「ウッドスタート事業」の開始 (H30~)

<主な成果>

- ◆自伐型林業研修参加者数
H28~R元 : 332名(延人数)
- ◆さかわ発明ラボ施設利用者数
H28~30 : 946名(延人数)
R元 : 191名(実人数)

<課題>

- ・自伐型林業を担う人材の育成、産業として成立するビジネスモデルの構築と推進のための組織づくり
- ・森林資源フル活用センター(仮称)の整備に向けた協議、運営体制の確立
- ・さかわ発明ラボの運営体制の確立

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆自伐型林業の 確立	林業従事者の確保・育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 地域おこし協力隊の採用、自伐型林業研修の実施 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供等 				
	産業として成立するビジネスモデルの構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 林地の集約化の推進、林業者による組織設立の検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供等 				
◆低質材の活用 促進	森林資源フル活用センター（仮称）の整備検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町： 森林資源フル活用センター（仮称）施設の具体的な整備・運営内容及び実施スケジュールの検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆さかわ産木材 を活用したもの づくりの推進	さかわ発明ラボ運営体制の確立及びものづくりに関する人材育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●佐川町、さかわ発明ラボ： 運営体制の検討、低質材を活用した木工品の開発・販売、学校教育・地域等と連携したものづくりを通じた人材育成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、関係事業者への橋渡し 				

修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.23 土佐市における体験型観光と食観光の推進 (土佐市) ※地域産業クラスター関連 (宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)土佐市観光協会、土佐市、宇佐ホエールウォッチング協会、土佐市ドラゴンガイドチーム
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。また、R2年度に開催する体験博を通じて体験型観光を担う事業者の掘り起こしを行うことで、土佐市のさらなる魅力発信につなげる。

指標	出発点	実績					目標
	H30	R2	R3	R4	R5	R5	
体験型・食観光における入込客数	2,143人					5,000人	

これまでの主な動き

＜これまでの取り組みの内容＞	＜主な成果＞
<p>◆地域資源を活用した旅行商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社向けのモニターツアーを実施 (H23：1回、H25：1回、H26：3回、H28：1回、H29.1回、R元：1回) ・鯉節工場見学の旅行商品化(H25～) ・クルージング体験の実施(H26～) ・ホエールウォッチング・クルージングパンフレットの作成 (H29.3月) ・土佐市観光パンフレット（きもち、いとさ）作成 (R元.9月) ・外国語パンフレットの作成（R2.1月） ・毎週開催している宇佐土曜市を活用した、着地型体験プランとして「宇佐スーパー土曜市」を開催 (H22～26：年1回) ・産業振興アドバイザーを導入し、塚地坂を中心とした青龍寺周辺の観光ガイド育成(H29：5回) ・観光ガイド団体の設立(R元.12月) ・土佐市の特産品を活用したギフト商品の開発 (H30.3月) ・B級グルメ「土佐のぶしめん」の開発（R元.5月） ・「うさまちあるき」の商品化の検討（R元） 	<p>◆地域資源を活用した体験メニューの定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホエールウォッチング体験者数 H28：2,436人 → R元：3,258人 ・クルージング体験者数 H28：22人 → H30：11人 ・観光ガイド育成 H29:4人 → R元：5人 ・ガイド件数 H28：1件11人 → H30：2件7人 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド事業拡大のためのさらなるガイド育成 ・ホエールウォッチングの船頭の確保 ・二次交通機関と連携した観光商品の検討 ・土佐市の観光商品の認知度向上に向けた情報発信の強化

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域資源を活用した旅行商品化	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">地域資源の掘り起こし及び活用による商品化</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 既存観光商品のブラッシュアップ、地域ならではの特性を活かした体験型観光ギフト商品の新規開発（R2：1種類、R3：1種類） 海鮮 BBQ の商品化（R2～） ガイド事業拡大に向けた取り組み（新規ガイド育成、ガイドコースの追加） 広報でのイベント情報の発信（通年） 地域おこし協力隊制度を活用した、ホエールウォッチングの船頭の育成（通年） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 地域資源活用及びガイド事業に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供（通年） 				
	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入</div>				
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 仁淀ブルー観光協会、近隣市町村、観光関係機関と連携した観光商品の開発（通年） 二次交通機関（バス会社、タクシー会社等）と連携した観光商品の検討（通年） 個人旅行者をメインターゲットとする商品の企画開発（通年） 観光商談会への参加や旅行会社へのセールス HP・SNS の活用による情報発信の強化（通年） ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 広報によるイベント情報の発信（通年） イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ（通年） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介 その他、各種支援制度及び観光商談会に関する情報提供（通年） 					
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">体験博の開催</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">体験博を契機とした体験型商品のブラッシュアップ及び新たな商品の開発検討</div> </div>					
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 事業者との連携による体験博の開催及び情報発信 ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 広報による体験博の情報発信 体験博開催のバックアップ ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 					
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 体験博の開催を通じた新規体験メニューの発掘 ●土佐市： <ul style="list-style-type: none"> 広報に関するイベント情報の発信 イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ（通年） ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案（通年） 					

修正後

仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.24 土佐市における体験型観光と食観光の推進 (土佐市) ※地域産業クラスター関連 (宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)土佐市観光協会、土佐市、宇佐ホエールウォッチング協会、土佐市ドラゴンガイドチーム
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地域の観光や食の資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。また、R3年度に開催する体験博を通じて体験型観光を担う事業者の掘り起こしを行うことで、土佐市のさらなる魅力発信につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
体験型・食観光における入込客数	2,143人 (H30)	3,382人		5,000人

これまでの主な動き

これまでの取り組みの内容	主な成果
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域資源を活用した旅行商品化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社向けのモニターツアーを実施 (H23:1回、H25:1回、H26:3回、H28:1回、H29.1回、R元:1回) ・鯉節工場見学の旅行商品化(H25~) ・クルージング体験の実施(H26~) ・ホエールウォッチング・クルージングパンフレットの作成 (H29.3月) ・土佐市観光パンフレット(きもち、いいとさ)作成 (R元.9月) ・外国語パンフレットの作成(R2.1月) ・毎週開催している宇佐土曜市を活用した、着地型体験プランとして「宇佐スーパー土曜市」を開催 (H22~26:年1回) ・産業振興アドバイザーを導入し、塚地坂を中心とした青龍寺周辺の観光ガイド育成(H29:5回) ・観光ガイド団体の設立(R元.12月) ・土佐市の特産品を活用したギフト商品の開発 (H30.3月) ・B級グルメ「土佐のぶしめん」の開発(R元.5月) ・「うさまちあるき」の商品化(R元) ・産業振興アドバイザーを導入し、観光ガイドチームのスキルアップ研修を実施(R2:5回) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域資源を活用した体験メニューの定着 ・ホエールウォッチング体験者数 H28:2,436人 → R2:1,459人 (12月末見込み) ・クルージング体験者数 H28:22人 → R2:12人(12月末見込み) ・観光ガイド育成 H29:4人 → R2:7人(12月末見込み) ・ガイド件数 H28:1件11人 → R2:6件68人 (R2.12月末見込み) ・旅行会社による視察受け入れ(R2:2回) ・R2.5月開催予定だった体験博は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。R3年度に実施予定。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド事業拡大のためのさらなるガイドの増員と育成 ・ホエールウォッチングの船頭の確保 ・二次交通機関と連携した観光商品の検討 ・土佐市の観光商品の認知度向上に向けた情報発信の強化 ・感染症対策に配慮した観光客の安心安全な受け入れ ・コロナ収束後の観光客の誘客

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域資源を活用した旅行商品化	地域資源の掘り起こし及び活用による商品化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 既存観光商品のブラッシュアップ、地域ならではの特性を活かした体験型観光ギフト商品の新規開発 (R2：1種類、R3：1種類) 海鮮 BBQ のイベント実施 (R2～) ガイド事業拡大に向けた取り組み (新規ガイド育成、ガイドコースの追加) 広報でのイベント情報の発信 (通年) 地域おこし協力隊制度を活用した、ホエールウォッチングの船頭の育成 (通年) ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> 地域資源活用及びガイド事業に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 (通年) 				
	関係機関と連携した観光商品開発及びツアー客の受入				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会： <ul style="list-style-type: none"> 仁淀ブルー観光協会、近隣市町村、観光関係機関と連携した観光商品の開発 (通年) 二次交通機関 (バス会社、タクシー会社等) と連携した観光商品の検討 (通年) 個人旅行者をメインターゲットとする商品の企画開発 (通年) 観光商談会への参加や旅行会社へのセールス HP・SNS の活用による情報発信の強化 (通年) ●土佐市：広報によるイベント情報の発信 (通年) <ul style="list-style-type: none"> イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ (通年) ●県(地域本部等)： <ul style="list-style-type: none"> イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の紹介 その他、各種支援制度及び観光商談会に関する情報提供 (通年) 				
体験博の開催					
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会：事業者との連携による体験博の開催及び情報発信 ●土佐市：広報による体験博の情報発信、体験博開催のバックアップ ●県(地域本部等)：イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 					
体験博を契機とした体験型商品のブラッシュアップ及び新たな商品の開発検討					
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐市観光協会：体験博の開催を通じた新規体験メニューの発掘 ●土佐市：広報に関するイベント情報の発信 (通年) <ul style="list-style-type: none"> イベント開催、観光商品開発の際のバックアップ (通年) ●県(地域本部等)：イベント開催に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 (通年) 					

修正項目（案）

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.26 いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進 (いの町)		
実施主体	◎(一社)いの町観光協会、いの町		
APへの位置づけ	H21.4		
事業概要	仁淀川の美しい自然、土佐和紙の歴史、古い町並みなど、いの町の持つ魅力を活かして体験メニューや土産品づくりを進めるとともに、季節ごとの特色あるイベントを開催することで交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。		

指標	出発点	実績					目標
	H30	R2	R3	R4	R5	R5	
(1) 体験参加人数	27,541 人					30,100 人	
(2) 体験メニュー 売上高	5,175 万円					5,931 万円	
(3) 主要観光施設 入込客数	374,801 人					415,800 人	

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆町内のガイド機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザー事業を活用し、中心市街地を訪れた方へ町の歴史的建造物等の特徴を紹介する看板を設置 (H27) <p>◆体験メニューの販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験メニューによる観光客の受入体制の強化 →にここ館で「仁淀川手ぶらで BBQ」の開始 (H24) →ラフト等備品拡充、サイクリング備品整備 (H28) →クリアカヌー、BigSUP 3 艇導入 (H30) 産業振興アドバイザー事業を活用し、にここ館改修にかかる体験メニューの磨き上げ (H30:2 回、R 元:3 回) 食を絡めたまちあるきコース (生姜収穫体験) の実施 (R 元.11 月) <p>◆イベント等の開催</p> <p>いの町紙のこいのぼり、“en”～灯りと自然と音楽と～、グリーンパークほどの梅もぎ体験、仁淀川国際水切り大会、仁淀川神楽と鮎と酒に酔う、Kami 祭 (いの通信局が県中山間地域等商業振興事業費補助金を活用し行った新たな取り組み)、かみのひなまつり、銀橋マルシェ</p> <ul style="list-style-type: none"> 仁淀川流域 6 市町村を自転車で駆け抜けるイベントを開催 (高知仁淀ブルーライド) (H30～) 	<p>◆地域製品の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光協会による缶バッチの作成 (R 元～) <p>◆外国人観光客の受入体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 県主催外国人観光客受入研修実施 (R 元.7 月) いの町観光協会が外国人観光案内所カテゴリー 1 を取得 (R 元.8 月) いの町観光協会の観光案内所機能強化に向けた無料公衆無線 LAN 環境等の整備 (R2.1 月～予定) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> カヌー、ラフティング備品の拡充 (クリアカヌー、BigSUP) が利用客増につながった。 ⇒カヌー・ラフティング・レンタサイクル利用人数 H28 : 4,329 人 →H29 : 3,904 人 レンタサイクル : 277 人 →H30 : 5,094 人 レンタサイクル : 327 人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 各主要観光施設毎の利用者動向分析及び対応策の検討 地域での周遊プランの作成 新たな体験メニューの開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験メニューの販売促進	<p>既存の体験メニューの磨き上げと新たな体験メニューの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、(一社)仁淀ブルー観光協議会： まち歩き等体験メニューの磨き上げ、地域の特産品と絡めた新たなコースづくり、事業者間の連携強化促進 ●県(地域本部等)：メニューづくりへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザー制度等の活用提案、補助金メニューの紹介 				
	<p>新たな体験メニューのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、(一社)仁淀ブルー観光協議会： 都市圏での物産観光展示会・インバウンド商談会等でのPR、海外メディア等へのPR、SNS等を活用した体験メニューの周知 ●県(地域本部等)：広報支援 				
	<p>にこにこ館の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ●いの町、(一社)いの町観光協会： 施設整備及び備品の拡充 				
◆イベント等の開催	<p>紙のこのほり等地域資源を生かしたイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、いの町： イベント内容の磨き上げ、イベント来場者に向けたいの町の魅力発信、SNS等を活用したイベントの周知 ●県(地域本部等)：補助金メニューの紹介、広報支援 				
◆地域製品の販売促進	<p>既存商品のイベント出店及び商談会等参加による販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、いの町産業経済課： れんけいこうち日曜市出店事業への参加、県内外での商談会参加、SNS等を活用した地元製品のPR ●県(地域本部等)：商談会等の紹介、広報支援 				

AP名 (実施地域)	No.27 いの町の地域資源を活かした体験型観光等の推進 (いの町)
実施主体	◎(一社)いの町観光協会、いの町
APへの位置づけ	H21.4
事業概要	仁淀川の美しい自然、土佐和紙の歴史、古い町並みなど、いの町の持つ魅力を活かして体験メニューや土産品づくりを進めるとともに、季節ごとの特色あるイベントを開催することで交流人口の拡大を図り、地域の活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 体験参加人数	27,541人 (H30)	28,428人		30,100人
(2) 体験メニュー売上高	5,175万円 (H30)	5,669万円		5,931万円
(3) 主要観光施設入込客数	374,801人 (H30)	379,742人		415,800人

これまでの主な動き

＜これまでの取り組み内容＞

◆町内のガイド機能強化

- 産業振興アドバイザー事業を活用し、中心市街地を訪れた方へ町の歴史的建造物等の特徴を紹介する看板を設置 (H27)

◆体験メニューの販売促進

- 体験メニューによる観光客の受入体制の強化
→にここ館で「仁淀川手ぶらでBBQ」の開始 (H24)
→ラフト等備品拡充、サイクリング備品整備 (H28)
→クリアカヌー、BigSUP 3艇導入 (H30)
- 産業振興アドバイザー事業を活用し、にここ館改修にかかる体験メニューの磨き上げ (H30:2回、R元:3回)
- 食を絡めたまちあるきコース (生姜収穫体験) の実施 (R元.11月～)
- グリーンパークほどのでの新たな体験メニュー「石釜で作る！焼きドーナツ作り体験」、「手ぶらでBBQ」の受入開始 (R2～)

◆イベント等の開催

- いの町紙のこのいぼり、“en”～灯りと自然と音楽と～、グリーンパークほどの梅もぎ体験、仁淀川国際水切り大会、仁淀川神楽と鮎と酒に酔う、Kami祭 (いの逡信局が県中山間地域等商業振興事業費補助金を活用し行った新たな取り組み)、かみのひなまつり、銀橋マルシェ
- 仁淀川流域6市町村を自転車で駆け抜けるイベントの開催

(高知仁淀ブルーライド) (H30～)

- 自転車レースを中心にカヌー・SUP・トレイルラン等を組み合わせたイベントの開催 (BIKELORE in NIYODO BLUE) (R2.11月)

◆地域製品の販売促進

- 観光協会による地域製品の通信販売開始 (R2～)

◆外国人観光客の受入体制整備

- 県主催外国人観光客受入研修実施 (R元.7月)
- いの町観光協会が外国人観光案内所カテゴリー1を取得 (R元.8月)
- いの町観光協会の観光案内所機能強化に向けた無料公衆無線LAN環境等の整備 (R2.3月)

＜主な成果＞

- カヌー、ラフティング備品の拡充 (クリアカヌー、BigSUP) が利用客増につながった。
⇒カヌー・ラフティング・レンタサイクル利用人数
H28: 4,329人
→H29: 3,904人 レンタサイクル: 277人
→H30: 5,094人 レンタサイクル: 327人
→R元: 6,057人 レンタサイクル: 496人

＜課題＞

- 各主要観光施設毎の利用者動向分析及び対応策の検討
- 地域での周遊プランの作成
- 新たな体験メニューの開発

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆体験メニューの販売促進	<p>既存の体験メニューの磨き上げと新たな体験メニューの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、(一社)仁淀ブルー観光協議会：まち歩き等体験メニューの磨き上げ、地域の特産品と絡めた新たなコースづくり、事業者間の連携強化促進 ●県(地域本部等)：メニューづくりへのアドバイスを得るための産業振興アドバイザー制度等の活用提案、補助金メニューの紹介 				
	<p>新たな体験メニューのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、(一社)仁淀ブルー観光協議会：都市圏での物産観光展示会・インバウンド商談会等でのPR、海外メディア等へのPR、SNS等を活用した体験メニューの周知 ●県(地域本部等)：広報支援 				
	<p>にここ館の整備</p> <p>にここ館の安定的な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ●いの町、(一社)いの町観光協会：施設整備及び備品の拡充 ●いの町、(一社)いの町観光協会：運営支援 ●県：広報支援、施設運営等に関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案 				
◆イベント等の開催	<p>紙のこいのぼり等地域資源を生かしたイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、いの町：イベント内容の磨き上げ、イベント来場者に向けたいの町の魅力発信、SNS等を活用したイベントの周知 ●県(地域本部等)：補助金メニューの紹介、広報支援 				
◆地域製品の販売促進	<p>既存商品のイベント出店及び商談会等参加による販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)いの町観光協会、いの町産業経済課：れんげいこうち日曜市出店事業への参加、県内外での商談会参加、SNS等を活用した地元製品のPR ●県(地域本部等)：商談会等の紹介、広報支援 				

修正項目 (案)

修正前

仁淀川地域アクションプラン		分野	観光
AP名 (実施地域)	No.33 「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (日高村)		
実施主体	◎(株)屋形船仁淀川、◎能津みらいづくり協議会、日高村		
APへの位置づけ	H21.4月		
事業概要	仁淀川流域の主要な観光資源として屋形船を中心とした魅力的な地域の観光拠点づくりを行い、乗船客の増加による地域の賑わいづくりや発着場をフィールドとしたコミュニティの活性化を進めることで、仁淀川流域の観光振興につなげる。		

指標	出発点	実績					目標
	H30	R2	R3	R4	R5	R5	
屋形船乗船者数	6,076人					8,000人	

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光客の受入態勢の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋形船拠点整備計画策定委員会の立ち上げ (H24) ・仁淀川漁協との協定締結 (H24) ・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、観光拠点整備計画の策定 (H24) ・屋形船の運航開始 (H24.5月) ・公衆トイレ整備 (H26) ・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、屋形船乗り場周辺の遊歩道を整備 (H26) ・屋形船を中心とした魅力的な地域の観光拠点づくり検討会の開催 (H27) ・遊覧コースのガイド本の作成、雨天時や冬期における集客メニュー造成の検討 (H27) ・産業振興アドバイザー事業を活用した屋形船遊覧ガイド養成研修の開催 (H28:5回) ・屋形船遊覧ガイド養成により、有償ガイドアナウンスを開始 (H28～) ・遊覧ガイドの募集チラシを配布 (H29) ・屋形船への乗船と文旦の収穫体験をセットにしたモニターツアーを開催 (H30) ・翻訳機の導入 (H30) ・Wi-Fi環境の整備 (R元) 	<p>◆国内外に向けた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS (フェイスブック) による情報発信を開始 (H29～) ・OTA (インターネット上だけで取引を行う旅行者) による予約受付を開始 (H30～) <p>◆能津みらいづくり協議会による集落活動センターの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能津地区振興計画策定に向けた地域住民による協議 (H30) ・能津地区振興計画の策定 (H31.4月) ・能津みらいづくり協議会の設立 (R元.10月) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆屋形船の運行 H24: 1隻 → R元: 4隻 ◆ガイド報酬のルール化及びガイド組織の設立により、ガイド養成の体制強化につながった <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客を含む乗船客の満足度の向上 ・屋形船の知名度の向上 ・雨天や冬期(閑散期)の集客に向けた対策

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光客の受入態勢の充実	ツアー客の受入強化と観光商品づくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川： 雨天時の代替メニューの造成等の検討、村内事業者と連携した観光商品づくり、ツアー客への昼食提供等の集落活動センターと連携した取り組みの実施 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐の観光創生塾等の講座等の紹介 				
	遊覧ガイドの掘り起こし・スキルアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川： ガイド募集チラシの配布 ●日高村観光協会： ガイド研修会の開催、ガイド組織間での連携強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、県主催の研修会等の紹介 				
◆国内外に向けた情報発信	観光客誘致のためのインターネットやメディア等を活用した情報発信の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川： OTAを活用した商品販売の継続、日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： イベント情報等の広報支援、各種支援制度に関する情報提供 				
◆能津みらいづくり協議会による集落活動センターの運営	施設整備、集落活動センターの運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●能津みらいづくり協議会： カフェ及び直販市の運営、体験観光プログラムの実施、地域情報の発信、空き家情報の集約 ●県（地域本部等）： 協議会の全体会及び役員会等への参画によるアドバイス、各種支援制度に関する情報提供 				

修正後

仁淀川地域アクションプラン

分野

観光

AP名 (実施地域)	No.34「屋形船仁淀川」を核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (日高村)
実施主体	◎(株)屋形船仁淀川、◎(一社)能津未来、日高村
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	仁淀川流域の主要な観光資源として屋形船を中心とした魅力的な地域の観光拠点づくりを行い、乗船客の増加による地域の賑わいづくりや発着場をフィールドとしたコミュニティの活性化を進めることで、仁淀川流域の観光振興につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
屋形船乗船者数	6,076人 (H30)	7,393人		8,000人

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆観光客の受入態勢の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋形船拠点整備計画策定委員会の立ち上げ (H24) ・仁淀川漁協との協定締結 (H24) ・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、観光拠点整備計画の策定 (H24) ・屋形船の運航開始 (H24.5月) ・公衆トイレ整備 (H26) ・観光拠点等整備事業費補助金を活用して、屋形船乗り場周辺の遊歩道を整備 (H26) ・屋形船を中心とした魅力的な地域の観光拠点づくり検討会の開催 (H27) ・遊覧コースのガイド本の作成、雨天時や冬期における集客メニュー造成の検討 (H27) ・産業振興アドバイザー事業を活用した屋形船遊覧ガイド養成研修の開催 (H28:5回) ・屋形船遊覧ガイド養成により、有償ガイドアナウンスを開始 (H28～) ・遊覧ガイドの募集チラシを配布 (H29) ・屋形船への乗船と文旦の収穫体験をセットにしたモニターツアーを開催 (H30) ・翻訳機の導入 (H30) ・Wi-Fi環境の整備 (R元) ・「LOGet! CARD (ロゲットカード)」(日本全国の 	<p>観光スポットを統一フォーマットでシリーズ化したコレクションカード) 事業への参画 (R2)</p> <p>◆国内外に向けた情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS (フェイスブック) による情報発信を開始 (H29～) ・OTA (インターネット上で取引を行う旅行者) による予約受付を開始 (H30～) <p>◆(一社)能津未来による集落活動センターの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能津地区振興計画策定に向けた地域住民による協議 (H30) ・能津地区振興計画の策定 (H31.4月) ・(一社)能津未来の設立 (R2.8月) <p><主な成果></p> <p>◆屋形船の運行 H24: 1隻 → R元: 4隻</p> <p>◆ガイド報酬のルール化及びガイド組織の設立により、ガイド養成の体制強化につながった</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客を含む乗船客の満足度の向上 ・屋形船の知名度の向上 ・雨天や冬期(閑散期)の集客に向けた対策
---	---

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆観光客の受入態勢の充実	ツアー客の受入強化と観光商品づくり				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川： 雨天時の代替メニューの造成等の検討、村内事業者と連携した観光商品づくり、ツアー客への昼食提供等の集落活動センターと連携した取り組みの実施 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐の観光創生塾等の講座等の紹介 				
	遊覧ガイドの掘り起こし・スキルアップ				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川： ガイド募集チラシの配布 ●日高村観光協会： ガイド研修会の開催、ガイド組織間での連携強化 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、県主催の研修会等の紹介 				
◆国内外に向けた情報発信	観光客誘致のためのインターネットやメディア等を活用した情報発信の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)屋形船仁淀川： OTAを活用した商品販売の継続、日高村観光協会や(一社)仁淀ブルー観光協議会と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： イベント情報等の広報支援、各種支援制度に関する情報提供 				
◆(一社)能津未来による集落活動センターの運営	施設整備、集落活動センターの運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)能津未来： カフェ及び直販所の運営、体験観光プログラムの実施、地域情報の発信、空き家情報の集約 ●県（地域本部等）： 協議会の全体会及び役員会等への参画によるアドバイス、各種支援制度に関する情報提供 				